

チェルノブイリの子どもたち

チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 79 2009年12月20日発行



今年もご支援を ありがとうございました

2009年の活動報告

- 5月 チェルノブイリ被害者家族の特別保養 ベラルーシ
- 6月 腫瘍病の子どもたちの特別保養 ベラルーシ
- 6月 腫瘍病の子どもたち・汚染地域の病気の子どもの特別保養 ウクライナ

ベラルーシ 子どもたちの保養



ウクライナ 子どもたちの保養



【年間を通しての支援】

- 放射能汚染地域の子どもの保養 ベラルーシ
- 病院への医薬品支援 ウクライナ
- 慈善団体への医薬品・運営費支援 ベラルーシ、ウクライナ

2009年9月24日、児童健康回復センター「希望21」開設から15年となりました。現在、多くの困難や問題はありますが、ベラルーシ、ドイツ及び日本の人々の協力で施設を運営することができます。センターは15年間にチェルノブイリ原発事故の被災児童42,062人の第二の故郷となり、ベラルーシ・ドイツ・日本のみんなの家となりました。

「希望21」全職員を代表して創設、発展及び活動維持支援に関わるみなさまのご尽力に心からお礼を申し上げます。これまで私たちは多くのことを行ってきました。しかし同時に行く手には新たな困難な課題があり、さらに解決していかなければなりません。

これまでに積み上げた経験と強い思いにより、今後もセンターを維持しチェルノブイリの子どもたちを援助していただけることを願っています。年々資金集めの社会的活動は難しくなっていますが、チェルノブイリ原発事故から23年過ぎましたが、放射能汚染地域の子どもの援助は今後も必要です。

ベラルーシ「希望21」所長 V・マクシンスキー

ベラルーシ 家族の保養



2009年の支援活動報告

今年も皆様の募金のおかげで以下のような支援活動を行うことができました。ほんとうにありがとうございました。

来年もチェルノブイリの子どもたちへのご支援をよろしくお願いいたします。

	円	内訳
ウクライナ	医薬品代	919,300 内分泌研究所:医薬品
	運営費	502,500 「チェルノブイリ子どもたちの生存」
	特別保養費	1,101,497 汚染地域の子ども・甲状腺手術後の子ども
	合計	2,523,297
ベラルーシ	医薬品代	1,855,236 ベラルーシ 2 慈善団体*
	運営費	1,607,960 ベラルーシ 2 慈善団体*+「希望 21」
	保養費	5,052,558 「希望 21」汚染地域の子ども
	特別保養費	1,365,153 甲状腺手術後の子ども・腫瘍病の子ども
	特別保養費	397,122 チェルノブイリ被害者家族
合計	10,278,029	

*:「困難の中の子どもたちへ希望を」「チェルノブイリのサイン」

ウクライナ 内分泌研究所からの手紙

ウクライナ国内の放射能汚染区域に居住し、甲状腺ガンを患っている若者たちの検査・治療に寄せいていただいた日本の皆様方の極めて貴重なご援助に対し、心よりお礼を申し上げます。皆様方のご援助で、超音波検査室と甲状腺結節生体細胞検査室用に設置された2台の超音波診断機「東芝 NEMIO」についてさらに詳細な報告をさせていただきます。

超音波診察室では2008年9月27日～2009年9月28日の1年間に、ウクライナ各地から訪れた28,386人が検査を受けました。病理学的診断をされた2,522人の患者が生体検査を受けました。外科手術を受けた324人が、細胞専門医により「甲状腺ガン」あるいは「胞状腫瘍形成」と診断されました。超音波診断機は、「東芝」社と「ウクロメドテフニク」社の技術サービスによりメンテナンスされ、良好な状態に維持され

ています。

チェルノブイリ事故被害児童に対する、長きにわたる善意のご援助に、改めてあなたとチェルノブイリ子ども基金のすべてのみなさまに、心から感謝を申し上げます。大いなる感謝と深い尊敬、そしてさらなる協力関係への願いをこめて。

内分泌研究所 所長 N.D.トロニコ
機能診断部門 部長 V.V.マルコフ
超音波診断部門 部長 S.I.マチャシユク

2009年「家族の保養」参加者の感想

ゴドゥノフ家(夫婦と娘3人で参加)

夫サーシャ(30歳・工場勤務):去年もこの保養に参加し、今年はまるで自分のうちに戻ってきたような感じだった。この保養のおかげで家族みんなが1年間分の元気を得た。

妻スヴェータ(22歳・店員):朝8時から夜8時までの仕事はとても体に負担がかかる。甲状

2010年支援の予定

ベラルーシ

児童健康回復センター「希望 21」

放射能汚染地域に暮らしている子どもたちの保養費用の一部を支援します。また、子ども基金の企画「病気の子どものための特別保養」「甲状腺ガンの手術を受けた親とその子どもの特別保養」をこのセンターで行います。

ベラルーシ 慈善団体

「困難の中の子どもたちへ希望を」

この団体を通して特別保養に参加する子ども・家族が選ばれます。ベラルーシの里子・奨学生の支援金の受け渡し窓口となっています。会員の子どものための薬代と事務所維持費の一部を支援します。

ベラルーシ 慈善団体「チェルノブイリのサイン」は昨年で解散しましたが、里子・奨学生への支援金受け渡しや、元会員たちの「希望 21」への保養は引き続き行われるため、スタッフ2名分の給料を支援します。

ウクライナ 病院「内分泌研究所」

甲状腺の病気の患者の薬代を支援します。

ウクライナ 慈善団体

「チェルノブイリ・子どもたちの生存」

この団体を通して特別保養に参加する子どもが選ばれます。ウクライナの里子・奨学生の支援金の受け渡し窓口となっています。事務所維持費の一部を支援します。

腺手術を受けた障害者を雇ってくれる職場はなかなかみつからず、職探しは大変だった。日々の生活でくたくただったが、またこの保養に来られると知って疲れがふっとんだ。夢のようだったと思った。去年もよかったが、今年も素晴らしかった。昨年参加した別の町の家族と、その後も交流を続けている。

ユラストフ家(夫婦と娘3人で参加)

夫サーシャ(29歳・運転手):自分の育った村は放射能汚染地域なので、子どもの頃からいろいろな保養所に行ったことがあるが、このセンターほど素晴らしいところは他にはなかった。施設の設備や医療サービス、催し物などすべて満足だった。何より感動したのは、清掃の人から管理職の人まで、職員みんなが同じように自分たちにあたたかく接してくれたことだ。

妻ユリヤ(20歳・医大生):子どもの頃「甲状腺手術後の子どものための特別保養」に何度か招待されて来たことがある。まさか家族で来られるとは思ってもみなかった。子どもたちにも私たち大人たちにも素晴らしい保養だった。こんなに長い間援助を続けてくれている日本人たちに心から感謝している。



「家族の保養」参加者：ベラルーシ「希望 21」にて
2009年5月18日～5月29日開催

チェルノブイリ 24 周年救援イベント 2010 年 4 月

2010 年 4 月にチェルノブイリ 24 周年救援イベントを計画しています。次号ではさらに詳しい情報をお届けします(下記内容は変更の場合もあります)。

“チェルノブイリ 24 周年 最新報告&チャリティーコンサート” 2010 年 4 月 24 日(土) 14 時～ 文京シビックホール 小ホール

〔共催〕チェルノブイリ子ども基金 チェルノブイリ子ども基金文京 連絡先：03-5228-2680

第 1 部：チェルノブイリ最新報告

子ども基金スタッフ・佐々木真理が、汚染地に住んでいる人々の状況・子どもたちの健康などについて報告します。

第 2 部：チャリティーコンサート

ウクライナの民族楽器バンドウーラによるウクライナ民謡の弾き語り、その他クラシックやオペラの曲を演奏していただく予定です。

出演者(予定)

▶ オクサーナ・ステパニユックさん(歌・バンドウーラ)

国立ウクライナ・チャイコフスキー音楽学院声楽家及び器楽科(民族楽器・バンドウーラ専攻)を首席で卒業。09 年ブルクハルト国際音楽コンクール最高位。JILA 音楽コンクール、大阪国際音楽コンクール第 3 位

▶ 印田千裕さん(ヴァイオリン)

東京藝術大学附属音楽高校を経て同大学卒業。'04 年、野村国際文化財団の助成を受けて英国王立音楽院に留学、演奏家ディプロマコース修了。江藤俊哉ヴァイオリンコンクール第 1 位

▶ 田中良茂さん(ピアノ)

桐朋学園大学卒業、同大学院修了。ドイツ・ケルン音楽大学卒業、同大学院現代音楽室内楽ピアノ科首席修了

▶ 丹羽広さん(歌)

四川大地震・岩手宮城内陸地震・チェルノブイリ原発事故被災者支援チャリティー・オペラ・コンサートを主催し、自ら司会などで舞台に立った。フェニックス証券(株)代表取締役社長

チケット発売開始予定 2010 年 1 月中旬より 予定価格 一般前売り 2500 円 18 歳以下/障がい者 1500 円
子ども基金のホームページ〔最新情報欄〕、ブログ〔神楽坂事務局だより〕にも随時新しい情報を掲載します。

“広河隆一 チェルノブイリ写真展”

4 月 21(水)～23 日(金) 文京シビックホール 展示室

〔共催〕チェルノブイリ子ども基金

チェルノブイリ子ども基金 文京

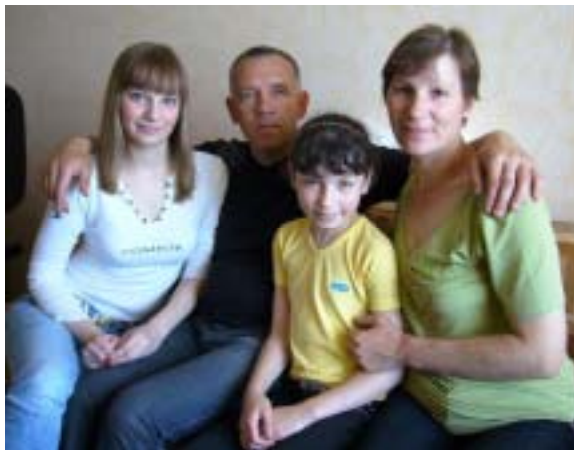
連絡先：Tel&Fax 03-5228-2680



用し、現在はビタミン剤を服用。3ヶ月に一度検査に通っている。「免疫力がとても低く、幼稚園に通わせることができません。園側もこんな体調の子どもを預かってはくれません」と母親。社会保障のアパートを得て2年前に越してきた。家賃や生活費など、祖父母の援助がなければ暮らしていけないという。兄のマクシムは9月から3年生。学校の成績もよく、家の手伝いもよくするし、弟の面倒もよくみる。母親は胃・すい臓に問題がある。ちょうどマトヴェイが病気になり始めてから悪くなったという。

いたずら盛りのマトヴェイは笑顔が絶えない。家族の愛情に包まれていることが感じられる。兄のマクシムが、子どもながら弟の問題をきちんと理解し、家の手伝いや弟の世話をしている姿がいじらしかった。

R・クリスチーナ 1998年生まれ
ベラルーシ ジロービン市



(2008年・2009年「希望21」で行われた特別保養に参加した。基金ニュース No.76[2009年3月発行]でも紹介。)

甲状腺腫。半年に1度内分泌医の検査を受けている。気管支が大変弱く、頻繁に風邪をひき扁桃炎にかかる。二人の姉は骨の肉腫で亡くなった。姉のうち一人は化学療法を受けていたが効果がせず、髪が抜けたままで埋葬された。父親はクリスチーナの目の前で母親を殴打し殺害し、現在服役中。クリスチーナは後見人の叔

父夫婦と暮らしている。母親の死後、クリスチーナは長い間ショック状態にあり、2年間は黒い色の絵しか描かなかったという。あたたかい家族に囲まれて、だんだんと心を開くようになり、学校でも普通に友達と接することができるようになっていった。ロシア語と英語の勉強が好きで、将来は医者になりたいという。「勉強も家の手伝いもよくする、本当にいい子です！」明るい叔母は笑顔で話した。「自分は彼女の本当の父親のつもりで育てています」と叔父は話した。訪問の際はちょうど夏休み中で、別の町の大学の寮で暮らしている叔父夫婦の娘が家に帰ってきていた。クリスチーナとは実の姉妹のように仲良しだった。

父親が母親を殺害したという記憶は、どれほど彼女の心を傷つけたか、想像を絶する。その上、自分の病気の問題も抱えている。小さな体に多くのことを抱え込んで苦しんでいた彼女は、優しい叔父夫婦のもとに引き取られて少しずつ子どもらしさを取り戻しているようだった。

N・イワン 1995年生まれ
ベラルーシ ゴメリ市



脈管炎。甲状腺腫。その他、膵臓や胃にも問題がある。将来は天文学者になりたいという夢をもつ。成績優秀で、数学・英語・ベラルーシ語・芸術などの科目で表彰を受けている。また作文がコンテストに入賞し新聞に掲載され

た。音楽が好きでギターを習っている。

母親の話。「息子は体のいろいろなところに問題があります。最近足も痛むといひます。10代の子どもが足や腕が痛いなんて、昔は聞いたことがありません。自分の母親はずっと寝

たきりの状態で、介護が必要なため、私は外に働きに行くことができません。家の修理も何もできず、壊れたところだらけです。うちは畑もありませんし、助けてくれる親戚もいません。夫が生きていたらもう少しまともな生活ができたかもしれません（イワンが2歳のときに肺炎で他界）。その上、自分も婦人科の病気があり、体調がよくありません。もし自分の身に何か起きたらと思うと、一人残される息子が心配でなりません。引き取って育ててくれる親戚もいませんから、孤児院へ入れられるしかありません。こんなことをお願いできるのかどうかわかりませんが、どうかあの子のことを見捨てないでください・・・」

* ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ *

子どものころに甲状腺ガンの手術を受けた世代はおとなになり、自分の家族をもつようになっていきます。二人の若者の現在の様子を報告します。

D・ヴォーヴァ 1985年生まれ
ベラルーシ カリンコヴィチ地区
スイロド村

ヴォーヴァは子どものころに受けた甲状腺ガンの手術後、声が出なくなりました。今でもかすれた高い声である。定期的に放射性ヨード治療を受けている。次回の治療は1年後に予定されている。ヨード治療を受けると、少しの期間分だけホルモン剤を無料で渡される。しかし次のヨード治療までまた自分で購入しなければならない。「希望21」での特別保養に何度か参加した。その頃知り合った仲間たちと



今でも親しく付き合っているという。ヴォーヴァは村の集団農場で牛追いの仕事をしている。妻は農業学校の学生。農場労働者用の家を得たため、間もなく二人で暮らす予定だという。

甲状腺ガンを発症してからは、手術や入院のため学校を休みがちになり、勉強が続けられなくなりました。教師の仕事をしている彼の母親は「息子にはよい教育を受けさせてよい仕事に就いてほしかったのに・・・」と気を落としているという。

H・カーチャ 1985年生まれ
娘カリーナ 2007年生まれ
ベラルーシ

ブダ・コシェリョワ市

カーチャは子どものころ甲状腺ガンの手術を受け、ホルモン剤を飲み続けている。娘のカリーナは生まれつき額にしみがあつた。成長と共に目立つようになり、定期検査を続けていたが、今年6月に手術を受けた。夫もカーチャも無職。それぞれの両親から援助を受けている。この町ではなかなか仕事が見つからないという。

家族が暮らしている町へ向かう途中、道の両側に放射能マークのある森が続く。その森で香草を摘んでいる人が見えた。「こういうところで摘んだものが町で売られ、人々は汚染されているとは知らずに買って食べているのです」と救援団体の代表者は話した。

23年目のチェルノブイリ

2009年3月訪問 報告 広河 隆一（後篇）

クラスノポリエのニーナ（78号からのつづき）

結婚式でみんなが勧める食事をどうやって断ったらいいか、正直、わかりませんでした。

それで、結婚式の写真を撮らせてほしいと言って写真を撮りました。そして、日本には、結婚式では、まず、お酒で乾杯するしきたりがあると話しました。そしたら、みんな、そうかそうかと喜んで、コップにウォッカをなみなみとついでくれました。それで、とりあえずは乾杯して飲み干さなければいけない。やっとウォッカを飲み終わったら、「飲んだのだから、さあ食べる」と言ってくるのです.....。

途中で私は半分気を失ってしまいました。記憶にまったくないのですが、後で通訳に聞いたら、私はカメラをブラブラさせながら、みんなの真中で踊っていたそうです。でも、それでも勧められた食べ物には、一切手をつけようとしなかったそうです。そういう中で取材したのが、ニーナ先生の結婚式でした。

その次にクラスノポリエに行ったときには、



食べ物の放射能を検査する、重さが200キロ位あるような機械を持っていき、



学校に設置しました。子ども基金が誕生するころ（1991年）です。やがてニーナ先生には息子マキシムが生まれました。いま、彼女は学校の先生を辞めていますが元気で、次男と夫と暮らしています。長男のマキシムは大学生になり、ミンスクで勉強しています。（写真の赤ん坊はマキシム）

児童健康回復センター「希望21」



「希望21」は、汚染がひどい地域に住む子どもたちが、先生と一緒に、学校ぐるみ、あるいは教室

ぐるみで長期間滞在し、勉強しながら療養する施設です。子ども基金はその運営費や先生の給与などを支援しています。スポーツ施設や工芸室、陶芸施設など、いろいろなものが日本の寄付で作られています。

支援を始めたころに贈った30キロゾーンの模型があります。ボタンを押すと、とくに放射能が強い地域のランプが点滅するような仕掛けです。ウクライナやベラルーシにこういうものはないので、博物館など国の施設から譲ってほしいと言われるそうです。日本コーナーの部屋には、日本の教室を開いたときの剣道の防具などもあります。

事故から10周年のころには、日本で彫刻のコンクールを開催し、入選した作品を「希望21」に飾るということもしました。いまも当時のまま展示されています。（横田隆資さん作：



母子像)

しかし、この施設も、援助だけでは運営していくことができませんので、チェルノブイリとは関係のない一般の人の保養施設として、有料で開放したりもしています。

ナターシャ・コンツェベンコ

ナターシャ・コンツェベンコは、子どものときに甲状腺の手術を受けました。親は遠くの町で働いていて、手術の日も立ち会えないという状況でした。手術の前日、ナターシャに、「どう？ 大丈夫？」と話しかけると、「私は大丈夫よ」と言っていたのですが、当日、手術台上上がったとたんに泣き出してしまいました。麻酔をかけられている間に死んでしまうのではないかと怖くなり、泣きじゃくっていました。いまは成長して結婚し、3月25日にマトベイ（奇跡の子という意味）という男の子を産みました(写真上:手術直前の様子 下:出産前の様子)。

彼女はずっとチェルノブイリのことで不安を抱えてきました。いま、子どもを産み、これからは、自分だけでなく子どもを健康に育てていくという仕事も担ったのです。

こういった希望に満ちた話の影で、事故を経験した人間たちには不安が一生ついてまわります。それは、生まれてくる子どもたちにも同様です。

事故当時、ヒロシマを参考に、どんな病気が、何人位発症するかという予測が立てられました。甲状腺ガンの潜伏期は通常4～12年と言われていますが、チェルノブイリによって、甲状腺ガンは事故から23年たっても発症する病気であ



るということがわかりました。

放射能のもたらす病気が恐ろしいのは、それまでの知識がほとんど役に立たないということ、つまり、新しいことが起こってしまうということです。人間が知り得ているのは、ほんの一部にすぎないということです。

チェルノブイリ診療所



原発から17キロ位離れたところにチェルノブイリ診療所があります。その医者や看護師に集まってもらって話を聞き

ました。「人々の健康はどうなっていると思うか」と質問したら、皆が一様に、「悪くなっている」と答えました。健康な人はいない、と。「この中で健康な人は？」と聞いたら、手を挙げる人は誰もいません。全員が、何かしらの病気を抱えていると言います。「過去と比べたら、明らかに状況は悪化している」というのが、この医療従事者たち全員の答えでした。

立ち入り禁止区域内（ゾーン内）で働く人、チェルノブイリの管理者の人たちは、採用のときは非常に厳しく審査され、健康な人だけが採用されているそうです。つまり、健康であるとお墨付きでその仕事を始めるのですが、皆が何年かの間に体の異常を訴えるといえます。

「ここで必要なものは何？」の答えは、超音波診断機でした。いま使っている診断機は10年前のもので、うまく診断ができないということでした。

放射能の雨

事故が起きたとき、放射能を帯びた煙がどう流れたか、どこで雨が降ったかで、人の運命が決められてしまいました。事故の後、雨が降った地域がありますが、なぜ、そのとき、

ミンスクの便利



ベラルーシの12月1日は暦上の冬の始まりとされていますが、振り返ってみると11月は記録的な暖かい月だったそうで、本格的な冬の訪れは今年も遅れています。そんな11月でしたが、最初の週末は日中の気温が氷点近くまで下がり、それと同時に、ベラルーシでも遅ればせながら新型インフルエンザの騒ぎが広がりました。

新型インフルエンザをめぐる状況については、半年前の時点でもお伝えしましたが、その後もベラルーシでは、新型インフルエンザが話題にのぼることはほとんどありませんでした。国内で初めて感染者が確認されたのは8月中旬で、夏休みに外国に行っていた子供が数名ということでした。しかし重症化する例はそう多くないと判断されたため、その時点では外国帰りの児童が自宅待機を義務づけられることもありませんでした。感染者数も一桁台のまま、増えることなく推移していました。

それがここにきて急に騒ぎ出したのは、隣国ウクライナでの感染拡大が報道されたためでした。10月最終週は学校が一週間の秋休みとなりますが、学校再開を控えた週末に連絡があり、休みが一週間延長されることが伝えられました。これはミンスク市内の学校全てが対象となっており、他の幾つかの都市でも同様の措置がとられました。理由はあくまで「急性呼吸器系感染症（＝風邪やインフルエンザ）の流行」ということで、新型インフルエンザには言及されていませんでしたが、ウクライナの状況が伝えられたこともあって、ベラルーシでも新型の感染が広がっているのではないかと懸念が一気に拡大したようです。学校はさらに休みが延長され、次の週の木曜によやく再開されました。授業が再開されてからも、特に低学年では、心配で学校を休ませる親もいたようです。

噂の広がる速度は驚くほどで、ほんの一日、二日の間に、それまでは皆無だったマスクをする人々が町で見られるようになり、薬局で薬やマスクを求めて人が殺到し、売り切れ状態になりました。普段なら賑わっている都心部のレストランなども、客足が途絶えてしまいました。スーパーや市場での店員のマスク姿は、日本人の私にとってはそれほど奇異なものではありませんが、普段そうした習慣をもたないベラルーシ人にとっては、かなりものものしい光景に映ったようです。そうは言っても、もともと品薄だったせいや、町中でマスクをしている人はせいぜい数十人に一人程度といったところでしたが、セーターやマフラーで口元を覆っている人が目立ちました（効果？）。薬については、タミフルやアスピリン、鼻腔に塗る抗ウイルス剤「オクソリン」などを、多くの人々が予防や万一の場合に備えて手当たり次第に買い求めたため、風邪をひいて薬局に行っても何もない、という事態に陥りました。

一方で、新型インフルエンザの感染者については確認が遅れ、人々の間には当局が真実を隠しているのではないかと、という憶測が広まり、余計に流言飛語が氾濫する結果となりました。本当の死者は発表よりずっと多いのだ、といった「確かな筋の」情報があちこちで聞かれました。

しかしこうしたパニック状態も二週目に入ると早くも沈静化し、さらに一週間も経つとニュースになることすら少なくなりました。季節性も含めたインフルエンザの発生自体が減少に向かったとのことですが、それより人々は、騒いだり戦々恐々としたりすることにうんざりしてしまったようです。パニックに陥るのは無用なことです。基本的な注意すら怠るようになってしまうのは危険です。半年先を行っている日本の状況を見るにつけ、まだ決して気を許してはいけなないと思います。何と云っても長い冬はまだこれからなのです。

花田朋子：ミンスク在住



里親のページ

基金ニュース9月号でご紹介した3人の子どもには里親が決定しました。その後さらに7人の子どもの支援要請が届き、全員の里親が決定しました。里親になってくださったみなさま、ほんとうにありがとうございます。

里子の家族からの手紙

15歳の息子サーシャは脳腫瘍を患い、左半身不完全麻痺です。5歳の時に手術を受け、その後放射線治療を受けました。7歳まで歩くことが出来ず、8歳になってやっと学校に通えるようになりました。しかしよく体調を崩し入院しなくてはなりません。慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」は、親身になって私たちを助けてくれます。特に代表のワレンチーナさんには感謝しています。彼女のところに何かお願いに行くと断られることは決してありません。残念ながら、国は私たちに与えられていた社会保障の特典を取り上げてしまいました。そのため生活はとても苦しいです。でも気を落とさず、将来が良くなることを信じて生きるようにしています。

(ベラルーシ ゴメリ市 里子の母親)

* = * = * = * = * = * = * = * = * = * = *

私と娘のワレーリヤは、皆様のご援助にとっても感謝しています。私たちとともに悲しみを分かち合え、また困難な時期を支えてくださる友人が現れたことを、本当にうれしく感じています。夏はあっという間に過ぎ去りました。私たちは家で過ごしました。私は少し元気になりましたが、娘は元気とは言えません。6月に私は娘を連れて定期検査のためミンスク市の病院に行きました。



残念ながら、検査結果は前より悪くなっていました。肝臓に転移が現れました。10月には再度検査に行く予定です。今年、私たちにはとてもうれしいことがありました。ワレーリヤが1年生になったことです。私は毎日神様に娘の健康を祈っています。そしてすべてうまくいくようにと。みなさまのご健康をお祈りします。

(ベラルーシ プラウギン市 里子の母親)

里親からの手紙



親愛なるニキータ君、ご家族の皆さまへ。

ニキータ君、13歳のお誕生日おめでとう！！そして、メリークリスマス。日本は今冬で、とても寒くなりました。でも君の住んでいるベラルーシほど寒くはないのだらうと思います。ニキータ君、元気で楽しく過ごしていますか。この間送ってくれた君たちご家族の写真を、机に飾っています。毎日毎日見ているので、何だか昔からの友達のような気がします。君は何をして遊ぶのが好きですか。どんなことに興味があるのでしょうか。今度教えてくださいね。どうぞ良い新年をお迎えください。ご健康とご多幸と、世界中の平和を願って。

(里親 Kさんより)

里親募集

経済状態が厳しい家庭の病気の子ども(2年間・月50ドル相当)を支援していただける里親を募集しています。詳しい資料をご希望の方は事務局までご連絡ください。

黒部ドクターのお話



インフルエンザ脳症と解熱剤



新型インフルエンザは当初の見込みと違い、だらだらと続いています。その特徴は、従来の季節型インフルエンザに比べて、第二波の流行がひろがり遅く、しかもかかった人は、従来より軽く済んでいることが多いのです。高齢者の慢性病をもっている人の重症化や死亡は変わりないようです。新型のインフルエンザにかかっても、ワクチンでも高齢者での死亡は出ていますが、従来から高齢者の死亡はインフルエンザで年1万人と言われていました。ところが、一時タミフルの害の方が騒がれましたが、また子どものインフルエンザ脳症による死亡が騒がれています。なぜでしょうか。

私の考えでは、インフルエンザと判る前に、家庭で熱が出たからと、解熱剤ないし市販のかぜ薬(総合感冒薬)を飲ませているのではないのでしょうか。市販のほとんどのかぜ薬には、解熱剤が入っています。では、なぜ解熱剤がよくないのでしょうか。

1998年の冬にはインフルエンザ脳症の子どもが217人出て、30人以上が死亡しました。その年、欧米諸国ではインフルエンザ脳症は一桁が普通でした。どこが違うかと言うと、日本では解熱剤が氾濫し、多用されていたのです。そこで小児科医たちが、解熱剤犯人説を唱え、解熱剤を使用しなくなりましたら、しだいに減少して、08年冬にはインフルエンザ脳症の子どもは28人に減りました。解熱剤犯人説は証明されたのです。

熱は、体外から入って来たウイルスや細菌などの異物と戦う仕組みだったのです。だから熱は、体にとって有利な反応なのです。詳細は省略しますが、体温が上昇すると、細菌やウイルスの繁殖が抑制され、36度のウイルスの繁殖を100とすると、39度では3%、細菌は14~5%に減ります。また細菌やウイルスと戦う仕組み(免疫の働き)も、37度より、39度の方が

活発になります。これは脳の体温調節中枢で調節していて、上限は皮膚温(水銀計)で41.1度、電子体温計では少し上がります。体温が42度を超えると死に到る危険があり、そこまで上昇するのは、熱射病と脳や脊髄の病気です。熱性けいれんの起きる子どもには、解熱剤ではなく、けいれん止めを使いましょう。

厚生労働省感染情報センター所長の岡部信彦さんに言わせると、「呼吸器などの持病のない人は、99%自然治癒するから、ワクチンもタミフルもリレンザも要らない」と言います。確かに、それらが無かった昔は、かかっても自然に治っていました。薬やワクチンには、まれにですが、副作用がありますが、使わなければありません。

解熱剤は有害で、インフルエンザの他に、麻疹(はしか)、水痘(水疱瘡)に使うと確実に悪化することが判っています。かぜに使っても回復が1日遅れるとの学会報告もあります。熱を出して戦っているのを、抑えてしまうからでしょう。

子ども(実はまれに大人にも出ているのですが)に、インフルエンザ脳症にしなければ、解熱剤や市販のかぜ薬を飲ませるのは止めましょう。インフルエンザウイルスは、他のウイルスと違い、呼吸器内だけで繁殖し、血液中には入りません。そして自己規制的ウイルスと言われる、ある程度繁殖すると、繁殖を止めてしまうのです。それによって、次々と他の人に移って繁栄しているのです。だから、2~3日(まれに5日)の発熱と頭痛をしのげば、治ります。頭痛や体の痛みにはリン酸コデインがよいのですが、処方してくれる医師は少数です。解熱鎮痛剤は使うのを止めましょう。医師からもらっても、使わないようにしましょう。周囲に惑わされずに、自己防衛をしましょう。

黒部信一：吹上共立診療所所長 小児科医師



チェルノブイリの歌声

～みなさんからの便りのコーナーです～

<カレンダー購入者の声>

以前、短期間、ボランティアをさせていただいたことがあります。普段は3人の子育てに追われて、チェルノブイリのことを思い出すことはあまりありませんが、毎月、カレンダーをめくるたびに、あの事故だけでなく、核をめぐるさまざまな現実を思い出します。購入部数が少なくて申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。

(神奈川県 Kさん)

ありがとうございました。絵はがきも送っていただき、うれしいです。丸木美術館で知りました。今後とも宜しく。

(山形県 Iさん)

放射能による苦難と苦しみの中ではあるけれど、被災者の人たちは、誠実に自然に生きていると感じました。

(愛知県 Sさん)

日本で、もうこれ以上原発建設をやってはならないと思いました。

(新潟県 Tさん)

24年間広河さんをはじめとして運動をなさった皆さんに感謝します。カレンダーありがとうございました。

(宮城県 Wさん)

いつもニュースをありがとうございます。諸事情により、なかなか金銭的援助が出来ずにすみません。カレンダーは、テーマと写真の素晴らしさに毎年楽しみにしています。世界が核廃絶・脱原発に向けて協同しようとする道を歩めますように、一所懸命祈りながら、貴基金の今後のご活躍を期待します。皆様どうぞお身体に気をつけて！

(東京都 Mさん)

来年は非核についてさらに皆が考える年になればいいですね！日本人、がんばらねば！

(岡山県 Oさん)

私はアムネスティ・インターナショナル日本の個人会員ですが、昨年三重県の会員の方を通じて、チェルノブイリ子ども基金とカレンダーのことを知り、購入させていただきました。カレンダーの中の人々の姿や笑顔に、逆にこちらが励まされる思いでした。彼らもがんばっているのだから、自分もがんばろうと思いました。そして、今年も購入させていただこうと思いました。ほんの少しですが、募金させていただきました。チェルノブイリの被害に遭われた人々、子どもたちが一日も早く回復され、安定した生活を送ることができるようお祈りいたしております。スタッフの皆様もどうぞご自愛されて活動をごがんばってくださいませ。

(福島県 Oさん)

原子力発電所の正しい情報が少しでも行き渡ることを祈ります。入院中の家族をかかえ、健康の大切さを感謝する日々です。

(大阪府 Kさん)

今日の新聞*を見て、初めて注文します。来年のカレンダー気に入る物が見つからずにいるところで、意味のある自分でも納得できる物に出会えた気がして、嬉しいです。

(栃木県 Kさん)

<同じ方からさらに追加の注文をいただきました>

先日1つ購入しましたが、とても素敵だったので、知人にプレゼントしました。なので、自分用と別に暮らしている家族用、それから職場の購入希望者の分もまとめて注文します。

*下野新聞 = 共同通信より配信後掲載

<振込用紙より>

あってはならない核災害、ヒロシマ、ナガサキと共に永く記憶され、子どもたちへの明日にくり返されませんよう祈ります。

(東京都 Sさん)

***** 募金・救援状況 *****

募金状況 2009年9月～11月

	9月	10月	11月
郵便振替	193件	196件	153件
現金	11件	10件	8件
救援寄付金	1,361,900	*6,990,762	**4,422,339
保養費	174,500	110,400	70,250
特別保養費	140,000	143,500	35,000
里子支援	417,280	120,020	52,360
09 特別保養費同金	177,500	128,000	36,000
合計(円)	2,271,180	7,492,682	4,615,949

*匿名の方よりの募金7万ドルを含む

** (株)アゴラより運営費としての募金350万円を含む

☆他に現物寄付(商品券、切手)10,585円分

救援状況 2009年9月～11月
 <ベラルーシ>(単位:円)

希望 21

- ・保養費(年間の保養費4% 後期分) 2,503,440
- ・運営費(15周年祝・食堂建設費) 277,291

困難の中の子どもたちへの希望

- ・里子支援 8人 ('09.10～'10.3月分) 224,256
- ・奨学生支援 8人 223,249
- ・運営費 5,353
- ・子どもたちへ新年祝い 90,250

チェルノブイリのサイン

- ・里子支援 3人 ('09.10～'10.3月分) 84,096
- ・奨学生支援 6人 168,192

救援キャンペーンの報告 09年特別保養費用

収入(募金09年3～11月末まで) 346件	1,309,500
支出	2,863,772

♡ 募金団体名一覧 ♡

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。多くの方々からご寄付をいただきました。みなさまに心より感謝申し上げます。

(順不同・敬称略)

【9月】

実教出版 放射能倶楽部／つゆくさと大地の会／安西メディカル(株)／生活協同組合パルシステム東京／ピースライブ イン こうち／中村企画／木村眼科クリニック／T・M ヨオガ楽園／平和を語り継ぐ三世代の会／東用堂治療院／三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金

【10月】

まちかど美術館／(株)熊本メディコ／日本教職員組合／常行寺／原発さよならえひめネットワーク／8月30日ナターシャ・グジーコンサート実行委員会／真宗大谷派 高德寺／(株)小学館／川和保育園父母の会／リサイクルグループカーリーナ

【11月】

恵泉女学園中学・高等学校 A4 マスク購入者／うえのはらリサイクルの会／杉並区教職員組合／リサイクルグループカーリーナ／生活協同組合あいコープみやぎ／恵泉女学園中学・高等学校 文化祭委員会／(株)アゴラ／川和保育園父母の会／(有)ユーロアル／学習院大学 学生自治会再建委員会

*一般募金と合わせて特別保養を本年も実施できました。多くの方々にご協力をいただきまして、まことにありがとうございました。(2ページ参照)

「チェルノブイリ子ども基金・文京」支部が発足

チェルノブイリ写真展やチャリティーコンサートなどのイベント開催を通じて、広く市民にチェルノブイリの状況を知らせることを目的として本年8月に発足。その後、文京区社会教育関係団体として登録されました。そのおかげで2010年度4月の救援イベント(4ページ参照)を開催予定の文京シビック小ホール・展示室の優先予約と減額料金が適用されました。

登録にあたっては文京区にお住まいの支援者のみなさまに呼びかけをいたしましたところ、14名の方々に会員になっていただきました。うち12名が文京区在住・在勤のみなさまです。会長は桜井香さん。副会長・会計などの担当も決まりました。今後、子ども基金のイベント開催の折には、文京支部のみなさまと協力しあってすすめて参ります。

事務局から

ボランティア募集

参加される方は日程が変更になる場合もありますので前日までにご連絡ください。事務局への電話は、平日午前 10 時～午後 5 時半の間に、留守の場合は伝言をお願いします。TEL & FAX 03-5228-2680



ボランティア作業日について

事務局では、毎月第 1・3 土曜日の午後 1 時半～5 時半、ボランティアの方と作業を行っています。参加される方は事前にご連絡ください。

次回ニュース発送作業

3 月 20 日(土)午後 1 時～5 時 場所：東京ボランティア市民活動センター A 会議室(通称ぼらせん：飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10 階) 発送作業を手伝っていただける方を募集しています。少しの時間でも歓迎です。

「チェルノブイリ子ども基金 文京」誕生！

4、15 ページでもお知らせしていますが、新しい支部ができました。今後、子ども基金のイベント開催に大いに力になっていただけそうです。

2010 年救援カレンダー 好評発売中

チェルノブイリ 24 周年カレンダー、サイズは例年よりやや小さく、また価格も 1300 円で、掲示しやすく、お買い求め安くなりました。売れ行き好評につき、残部僅かです。

「基金ニュース」について

募金をくださった方には、その使われ方の報告として原則 1 年間お送りしています。また、ニュース購読費(2,000 円/年)も募っております。印刷・発送は実費の経費でまかなっておりますので、切手代とあわせても購読費以下で間に合います。残金は募金として使わせていただきます。

年末年始の休みについて

12 月 29 日(火)から 1 月 5 日(火)まで休みます。

振替用紙について

一律に同封させていただいておりますが、決して募金を強要するものではありません。万一、ご心配やご負担をおかけしてありましたら、慎んでお詫び申し上げますとともに、このような目的であることをご理解の上、ご容赦いただけましたら幸いです。

DAYS JAPAN 存続キャンペーン

子ども基金の設立者で現顧問の広河隆一さんが編集長の DAYS JAPAN は創立 6 周年を迎えます。12 月 9 日に日本写真家協会賞を受賞したばかりです。しかし、「本」が次々と書店から消えていく中、DAYS JAPAN も例外ではなく危機を迎えています。ぜひ、存続キャンペーンにご協力ください。詳しくは DAYS JAPAN のホームページまたは事務所にお問い合わせください(TEL 03-3322-0233 FAX 03-3322-0353)。

事務局長交代のお知らせ

早いもので、2004 年 6 月に事務局長を引きついであっという間に 5 年半が経ちました。子ども基金は 91 年設立ですが事務局を構えて活動を開始したのは 92 年からです。初代事務局長として 97 年まで杉並の事務所に通いました。その後 2 代、3 代に引き継ぎ、また戻り、そして 2010 年より、5 代目佐々木真理さんにバトンタッチします。長い間にわたって活動を支えていただき、みなさまに心から感謝申し上げます。理事としてボランティアとして今後も活動には携わるつもりです。どうぞ今後とも子ども基金に対しまして、変わらないご支援をよろしく願いいたします。

(向井雪子)

発行人 チェルノブイリ子ども基金 鈴村 稔 発行日 2009 年 12 月 15 日(年 4 回発行)
〒162-0816 東京都新宿区白銀町 25 メゾンド原 207 号室 Tel / Fax 03-5228-2680
郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316
ウェブサイト = <http://www.smn.co.jp/cherno/index.html> e-mail: cherno1986@tokyo.email.ne.jp
事務局ブログ更新中 神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>
当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。